

喜多方観光物産協会

観光庁事例集で紹介

地域連携 取り組み評価



会津若松、喜多方両市の2団体が紹介されている観光地域づくり事例集

会津若松市の七日町通りまちなか協議会（渋川恵男会長）と喜多方市の喜多方観光物産協会（冠木紳一郎会長）の取り組みが国土交通省・観光庁編集の観光地域づくり事例集2015「日本を元気にする地域の力」に取り上げられた。本県からは二団体のみ。

観光立国づくりを進める政府が活動のヒントにしてもらおうと約三年ぶりに発刊した。全国で七十四事例を紹介している。

七日町通りまちなか協議会は「地域産業と観光との連携」の事例として登場する。①鶴ヶ城城下に西方から入る越後街道沿いに残る歴史的建造物の街並みを生かした集客②周辺の寺社巡り、まち歩き推進によるにぎわい創出③城下町の商業文化や史跡など地域資源の

魅力発信―が先進的と評価された。

喜多方観光物産協会は「多様な地域づくりとの連携」の典型とされた。独特の景観を形成する蔵、ラーメンに次ぐ「漢字のまち」として新たな観光資源を磨き上げた点が着目された。「古代文字」を使って商店の看板を書いたほか、散策マップを作成、イベントや小学生の学年行事も催している。問い合わせは同庁観光地域振興課 電話03(5253)8328へ。